

令和4年度実施 市民提案型協働事業

企画提案書



新規企画提案

部 門	自由部門
提案団体	NPO法人 ぜんしん
事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」のモデル構築に向けて～
事業担当課	農水産課

令和3年5月
平塚市

令和 4 年度「企画」提案書（市民提案型協働事業）

(宛先)

平塚市長 殿

団 体 名 特定非営利活動法人ぜんしん

代 表 者 柳川 涼司

市民提案型 新規 継続（平成 年度～）

○ 添付文書：団体の会則（定款等）、団体の直近の決算書と予算書

○ 確認文書：総合計画該当チェックシート、企画提案書作成時確認シート

1 提案内容

部 門	<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門	テーマ名	
①事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業～平塚市「スマートライスセンター」のモデル構築に向けて～		
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>当団体は過去 6 年に渡り、平塚市と不登校・ひきこもりに悩む親子へ先ず、家から外へ出て、きっかけを得る為の居場所を提供して来た。次いで、居場所で元気になれた若者が同市・中央図書館に出向き、本の修繕等のボランティア体験を行うことで就労に向けて自信を培うまでに至ったが、未だ就労に結びつかない若者が存在している。その為、より実践的な職業体験の場を設け、彼らが就労に繋がる機会を提供する必要がある。</p> <p>一方、農業に携わる人々の高齢化が進み、後継ぎ不足等の問題が顕在化している。特に、県下トップの米どころである本市の水稻においては、水稻作業を受託する組織の存在が大きく、とりわけ水稻の全作業を請け負うことが出来る湘南ライスセンター株式会社への委託ニーズが年々、増えている。そのため、平塚市がスマート農業の導入を支援し、デジタルと連動した農業機械等が導入されたが、働き手の平均年齢は 70 代半ばといった現状であり、単純作業のほか、スマート農業の導入から得られるデジタルデータのフル活用による効率化の実現には課題がある。</p> <p>本事業は、このように農家の人材不足等の問題改善に向け、スマート農業を推進する平塚市とデジタル機器を得意とするひきこもり等の若者が農業体験等を通し、自立する為の就農支援プロセスを構築することを目的とする。</p>		
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必 要 性	<ul style="list-style-type: none"> ・相談から職業体験、就労へとワンストップで若者を自立へ導ける ・湘南ライスセンターほか、農家の人々の担い手不足を補う ・農家の人々が不得手とするデジタル処理の運用サポートが不可欠 	
		メ リ ッ ト	<p>（市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者は、自分の得意とするデジタル分野で活躍できる場が得られる ・若者は、小さな成功体験を積むことで自己肯定感が回復・向上する ・若者は、自立に向け、より実践的な体験ができ、就労も可能になる ・農家は、ICT の知識や手法を習得できる ・農家は、作業を補ってもらいながら、デジタルのフル活用による効率化を図ることができる ・農家・若者ともに、新たな労働力・雇用の創出につながる

	<p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に要する「職業体験」の場を確保できる ・数多くの職業人と接する為、会話や対人訓練等の場を得られる ・協働することで農家の方々と団体が連携し、事業を展開し易くなる <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートライスセンターの若者雇用のモデルとして、波及効果が見込まれる(取り組みや成功事例のPRを行う等、多くのひきこもり状態にある若者のチャンスになる) ・ライスセンターが受託する量やメニューを増やすことができ、益々高齢化する農家のニーズに応えることができる ・市内の相談機関等を訪ねても解決策を得られない不登校やひきこもり当事者へワンストップで、支援の手を差し伸べられる
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやネット依存等で悩む若者が得意とするデジタル機器等を活用し、多様な人々と交流しながら新たな社会で活躍する機会を得られる ・不登校やひきこもりの若者は、団体の寄り添い型の手厚い支援を受けられるので、安心して体験等に参加し、市内の農家へ就労できる可能性がある ・コロナ禍にある中、若者たちは、屋外での農作業に参加することで、①生活習慣の改善が図られ、②達成感を得て、自己肯定感が醸成されることから自立意欲が更に高まることが期待できる ・農業技術の習得ほか、若者は就農に向けて段階的な準備を進める過程で農家とつながり、農作業の報酬を得られる機会が生まれる可能性がある ・スマート農業導入により「3K(きつい・汚い・危険)」とされた来た従来の農業イメージが、「かっこいい・稼げる・感動」へと変化しており、若者の参加が見込まれる(団体スタッフも体験に参加し、実感している) ・稲作の全行程を担うことができる「湘南ライスセンター」において、急務とされる人材不足が補われ、組織が活性化することで、都市農業の先駆的モデルを確立できる ・県下トップの米どころを維持する一助となり、はるみブランドの強化が可能になる
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>初年度は、若者と農家の方々との信頼関係づくりを大切にしながら若者の自立に向け、スマートライスセンターとしてのモデル構築を図る為、以下の事業を実施していく。</p> <p>①4月～11月 湘南ライスセンターで農家(各農家)の方々と初回ヒアリング等の実施、体験作業内容の打合せ、就農希望者の受入れに向けた話し合い、団体会議等の開催(16回)</p> <p>②5月～2月 KSAS 営農コース等の研修受講…団体スタッフと職業体験者がスマートアグリシステム等の研修を受ける(3回)</p> <p>③5月～3月 配布資料・打合せ・アンケート分析等の書類作成(46回)</p> <p>④5月～11月 農作業の体験…播種、消毒、ハウス移動、草取り、収穫等の作業を湘南ライスセンターほかで体験する(10回)</p> <p>※5月～3月 デジタル的なサポートの実施…パソコンを活用した事務作業、KSAS の導入ほかのお手伝い等が必要かを伺い、具体的なデジタル的なサポート等を実施(目標：3回)</p> <p>⑤12月～3月 遊休農地等へ出向き、農家の方々と草刈りを実施(1回)</p> <p>⑥3月 若者と農家を交えた話し合いの場・振り返り(2回)</p>

<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校・ひきこもり等の経験をした「寄り添いスタッフ」の提供 ・農業体験者へ事前・事後の「メンタル的なケア」等の相談を実施 ・デジタル的な側面を担うスタッフと農業に詳しいスタッフの提供 <hr/> <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湘南ライスセンターをはじめ、農家の方々や JA 湘南ほかとの連絡と調整（体験だけでなく、就職先となる農家等の紹介） ・市内の農業情勢に詳しい職員の提供 ・広報ツールで当該事業の周知や PR に協力
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、自治会・地域団体・他の市民活動団体等と連携の実績や予定があれば記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市/青少年課と開催している「居場所事業」や同市・社会教育部中央図書館と開催している「図書館ボランティア体験」と連携して実施する ・参加者の状況に応じて関連する医療機関の臨床心理士等とメンタルケアを行いながら本事業を展開していく ・参加者となる当事者の紹介や支援活動の周知協力には以下の機関を予定している <p>(1)神奈川県立青少年センター (2)神奈川県平塚保健福祉事務所 (3)平塚市教育委員会 (4)平塚市子ども教育相談センター (5)平塚市児童相談所 (6)平塚市内各図書館 ほか市内外の団体・機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業に関する技術・最新情勢・体験先の提供等を以下の機関から受ける <p>(1)神奈川県農業技術センター (2)平塚市農業委員会 (3)湘南ライスセンター株式会社 (4)株式会社ガヤマファーム</p>
<p>⑧事前調査の有無</p> <p>ニーズの把握、他市の事例など調査したことがあれば記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市協働事業「不登校・ひきこもり改善・自立支援の参加者人数：H29年度 37名、H30年度 63名、R1年度[後援事業]22名 ・市内の不登校児童・生徒数の状況（令和元年度） <ul style="list-style-type: none"> a)小学校 119人 b)中学校 252人 計:371人(学校教育部・教育指導課) ・市内のひきこもり者数（推計・令和2年1月/15～39歳）：約1,032人（人口：65,784人×1.57%※1）※1：内閣府調査(2016年)出現率で算出 ・平塚市内の農家数の推移(農林業センサス) ※印：10年間の増減数 H17年 1,909戸 H27年 1,671戸 ※238戸減少 ・平塚市内の農業就業人口(農林業センサス) H17年 2,611人 H22年 2,035人 H27年 1,891人 ※720人減少 ・平塚市内の農業就業者数の平均年齢(農林業センサス) H17年 63.1歳 H22年 66.7歳 H27年 67歳 ※3.9歳上昇 ・後継者が存在する農家数(H27年・販売農家 / 農林業センサス) 平塚市：1,081戸中 494戸(45.7%) 神奈川県(55.2%) 全国(48.7%) <p>☆学生は、主に作業体験 ☆20代以降の若者は、作業体験から就農へ</p> <p>上記の中で、職業体験等を希望する当事者が、当該事業に参加することで、仕事や学業に対する意欲が高まり、自立(就農)につながる可能性がある。また、地域課題等の解決に向け、一翼を担うことができる</p>
<p>⑨事業実施後の展望</p> <p>次年度以降、この提案事業の展望や、事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。</p>	<p>1年目の職業体験等にて農家の方々や諸機関との関係性の構築を慎重に進め、築き上げた信頼関係をもとに、翌年度以降は以下の通り、事業を拡大していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年目は、職業体験等を重ねながら、農家の方々へデジタル機器やスマート農業に関連する機材のサポート等を本格的に着手していく ・3年目は、更に、デジタル系サポート内容を拡大させていく(農薬散布ドローン等、リモート機材による作業ほか)。また、3年日以降は、ライスセンターに人材バンク的機能を構築していく。市内の農家と連携し、若者の体験先や就農が可能となる場(若者が活躍できる就職先)を拡張していく。加えて、困難な状態にある遊休農地の草取り等も実施していきたい。

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トクテイヒエイリカツドウハウジン ゼンシン		
	特定非営利活動法人 ぜんしん		
②所在地	〒254-0026 平塚市中堂2番22号		
③ホームページ	https://www.zenshinngo.org		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	柳川 涼司 (役職) 理事長	
	電話	[REDACTED] (連絡可能な時間帯) 10時から22時	
	FAX	[REDACTED]	e-mail [REDACTED]
	住所	[REDACTED]	
⑤設立年月	平成 23 年 10 月 (法人格取得年月 平成 24 年 9 月)		
⑥会員の状況	個人会員	55 人 (うち平塚市民 21 人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>1)居場所の提供：不登校・ひきこもり当事者親子が集い、意見交換等を行う。 ・平成 30 年度 延参加者：152 名 ・令和 1 年度 延参加者：122 名</p> <p>2) 就労支援相談会&プチ・パソコン講座の開催：ひきこもりやニート状態にあり、就労に悩む親子へ相談会や就職後に役立つパソコン講座等を開催。 ・平成 30 年度 延参加者：207 名 ・令和 1 年度 延参加者：153 名</p> <p>3)訪問支援：当事者親子の各家庭他へ訪問し、個別相談やパソコン講座等を実施。 ・平成 30 年度 197 件 ・令和 1 年度 163 件</p> <p>4)その他(講演会[神奈川県共催事業]、図書館ボランティア体験事業[平塚市協働事業]、eスポーツをテーマにした職業体験事業[神奈川県委託事業]、ほか)</p>		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①理事長	柳川 涼司	事業全体の総括(産業カウンセラー)
	②副理事長	甲田 浩之	企画考案補佐、ピアサポーター
	③理事	手塚 明美	当事者・支援者の紹介、運営助言
	④理事	坂田 美保子	当事者・支援者の紹介、運営助言
	⑤理事	佐藤 五十男	当事者の紹介・受入れ、運営助言
	⑥農業委員会会長	佐藤 光夫	湘南ライスセンター情報の提供等
	⑦ガヤマファーム代表	菊池 創太	農業アドバイザー、体験先の提供
	⑧	来城 裕司	ピアサポーター、体験者補佐等
	⑨	浅倉 朱実	マネジメント、資料・計画等作成
	⑩	柳川 範子	会計管理、収支決算報告の作成

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	1,540,100円	市の支出	1,520,100円
		団体の支出(他の収入等)	20,000円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 1,520,100	
団体の支出	20,000	団体の会計より支出
事業収入	0	職業体験者の参加費は、徴収しない
収入合計	A 1,540,100	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価などの具体的な内容
実証・検証報酬 (責任者)	517,500	517,500	総括責任者(産業カウンセラー/心理相談員): ①打合せ訪問・会議等: 5H×16日×1人×1,500円 ②KSAS スタッフ研修: 7.5H×3日×1人×1,500円 ③配布資料等の書類作成: 5H×30日×1人×1,500円 ④農作業の体験: 7.5H×10日×1人×1,500円 ⑤遊休農地の草刈り実施: 7.5H×1日×1人×1,500円 ⑥振り返り等の会議: 5H×2日×1人×1,500円
実証・検証報酬 (ボランティア)	493,500	493,500	団体スタッフ(ボランティア): ①打合せ訪問・会議等: 5H×16日×2人×1,050円 ②KSAS スタッフ研修: 7.5H×3日×2人×1,050円 ③配布資料等の書類作成: 5H×8日×2人×1,050円 ④農作業の体験: 7.5H×10日×2人×1,050円 ⑤遊休農地の草刈り実施: 7.5H×1日×2人×1,050円 ⑥振り返り等の会議: 5H×2日×2人×1,050円
謝金 (農家1名)	15,000	15,000	遊休農地の草刈りスタッフの車両(交通費)、 廃材運搬・処理費用込み
事務用品費	35,000	35,000	プリンター用インク代:5,550円×4組、郵送関連(角2封筒等):5,068円、A4コピー用紙、文房具類:7,732円
消耗品費	215,000	195,000	ノートパソコン: 97,800円×1台、PC周辺機器等: 48,000円、農業用品(作業着、長靴等): 69,200円
旅費交通費	133,760	133,760	団体スタッフ:(1,040+1,380+1,760円)×32日
印刷製本費	38,000	38,000	パンフレットデザイン費: 30,000円、 A4カラー・両面印刷費: 4円×1,000枚×2回
通信運搬費	18,000	18,000	事業周知パンフレット郵送費: 250円×36カ所×2回
保険料	74,340	74,340	職業体験者:0円(平塚市市民活動災害補償制度を利用) 団体スタッフの傷害保険: 1,770円×14日×3人
支出合計	B 1,540,100	D 1,520,100	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※総事業費及び市の支出金額は、応募時点での団体からの提案額であり、提案団体と事業担当課との意見交換の中で変更される場合があります。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表いたします。